

[試験紹介]

高温に強い水稻品種の育成

近年、作付面積が拡大している水稻品種「とちぎの星」は高温耐性を有し、高温による玄米品質の低下が少ない品種です。しかし、さらなる温暖化の進行に伴い、高温による品質低下のリスクが懸念されており、耐暑性に優れた品種の育成が求められています。

水稻の品種開発においては、育成中の稲が高温に対してどの程度の耐性を持つかを毎年検定し、優れた個体を選抜する必要があります。そこで、毎年安定した条件で検定を行うため、今年度、新たに水田内に高温耐性検定ハウスを設置しました。このハウスでは育成中の稲と高温耐性が「強」から「弱」までの標準品種を移植し、一定の高温ストレスを与えて比較することで、より精度の高い検定を行うことが可能となりました。

今後は、この高温耐性検定ハウスを有効に活用し、高温耐性が「強」以上の品種を効率的に育成できるよう、取り組みを進めていきます。



写真1 高温検定ハウス
(温度センサー、ファン、自動側窓によりハウス内温度を調節可能)

(水稻研究室)

[試験紹介]

保水剤がブロッコリーの初期生育に及ぼす影響

本県では、近年の夏期（7～9月）における高温及び降雨不足の影響により、露地野菜（ブロッコリー、レタスなど）の播種や定植時に見られる発芽不良、苗の生育不良、定植後の初期生育不良が課題となっています。特に定植直後に苗を速やかに活着・生育させることは、収量の向上につながる重要な要素です。

こうした課題への対応策として、近年、化学燃料由来ではなく、植物由来の生分解性保水剤が園芸用として販売されています。

定植から活着までの期間を短縮するとともに、灌水を行う手間を削減するため、保水剤（高分子吸水ゲル）を用いたブロッコリー栽培試験を行っています。本試験では育苗中の培土に保水剤を混和し、十分に吸水させて定植することで、ブロッコリーの初期生育に及ぼす影響と保水剤の効果的な使用方法について検討を進めています。



写真1
40倍に吸水した
保水剤



写真2
保水剤を用いた
ブロッコリーほ場

(野菜研究室)